

第十四回婦人週間

婦人の地位向上を図るため同婦人の最初の歩行行進の日である四月十日から全体的に婦人週間が設けられる。この日のスローガンは、「平等に新しい秩序を」とであるが、婦人の地位を高めるためには婦人が自主的な意識と態度を確立すると共に、その力を次の育成のために投資するよう努めねばならぬことをこの機会に呼びかけるものである。

女の地位

「なんだ、きょう一日だけ女らしくしてくる日かと思った」



消防団出初式を挙行

昭和三十七年度、伊方町消防団出初式が三月二十五日、消防団員として活躍する消防団員に、伊方中学校を以て、左方に消防団員が参加し、多敷まもるもも、面から表彰状、感謝状、記念品などに、町内二十一ヶとがわかれ正午無事終了しました。分団三九〇名が参加した。

- 昭和三十七年度、伊方町消防団出初式が三月二十五日、消防団員として活躍する消防団員に、伊方中学校を以て、左方に消防団員が参加し、多敷まもるもも、面から表彰状、感謝状、記念品などに、町内二十一ヶとがわかれ正午無事終了しました。分団三九〇名が参加した。
- 第一分団 藤岡 房雄
 - 第二分団 矢野 吉衛
 - 第三分団 水井 隆秀
 - 第四分団 徳重 義一
 - 第五分団 藤原 新
 - 第六分団 長瀬 三郎
 - 第七分団 吉本 孝久
 - 第八分団 林 正男
 - 第九分団 福田 松
 - 第十分団 上田 義雄
 - 第十一分団 二宮 勝
 - 第十二分団 宮本 時良
 - 第十三分団 水上 和洋
 - 第十四分団 堀内三三男
 - 第十五分団 竹本 明善
 - 第十六分団 根来 兵衛
 - 第十七分団 鳥津幸佐雄
 - 第十八分団 森田 保仁
 - 第十九分団 松本 晋市
 - 第二十分団 重岡 治明
 - 第二十一分団 西村 高義
 - 第二十二分団 宮藤 六美
 - 第二十三分団 門田 清徳
 - 第二十四分団 渡辺三康高

明るい一家



明るい一家の漫画。登場人物は、父、母、子。会話内容は、家族の日常会話。



国旗を先頭に威風堂々整列した消防団員

- 第四分団 松田 建市
- 第五分団 山下 敏夫
- 第六分団 市来 昌夫
- 第七分団 山下 初
- 第八分団 小泉 久
- 第九分団 竹内 繁壽
- 第十分団 崎田幸十郎
- 第十一分団 山口 善明
- 第十二分団 三根生貞明
- 第十三分団 与品 武史
- 第十四分団 四戸 ヲ
- 第十五分団 高野 春市
- 第十六分団 金山 保久

お札
松出市に在住して、妻の病天、街道交番長として活躍されている山内幸長氏より千円、新居町多喜軒にお住いの松本喜左衛門氏より千円、北原道比市にお住いの水原株式会社にお勤めの石土光幸氏より五百円、高橋隆太郎氏にお住いの山内隆成氏より五百円、それぞれが、お札の品目と額を添付いただきました。

- 第一分団 藤岡 房雄
- 第二分団 矢野 吉衛
- 第三分団 水井 隆秀
- 第四分団 徳重 義一
- 第五分団 藤原 新
- 第六分団 長瀬 三郎
- 第七分団 吉本 孝久
- 第八分団 林 正男
- 第九分団 福田 松
- 第十分団 上田 義雄
- 第十一分団 二宮 勝
- 第十二分団 宮本 時良
- 第十三分団 水上 和洋
- 第十四分団 堀内三三男
- 第十五分団 竹本 明善
- 第十六分団 根来 兵衛
- 第十七分団 鳥津幸佐雄
- 第十八分団 森田 保仁
- 第十九分団 松本 晋市
- 第二十分団 重岡 治明
- 第二十一分団 西村 高義
- 第二十二分団 宮藤 六美
- 第二十三分団 門田 清徳
- 第二十四分団 渡辺三康高

- 第一分団 藤岡 房雄
- 第二分団 矢野 吉衛
- 第三分団 水井 隆秀
- 第四分団 徳重 義一
- 第五分団 藤原 新
- 第六分団 長瀬 三郎
- 第七分団 吉本 孝久
- 第八分団 林 正男
- 第九分団 福田 松
- 第十分団 上田 義雄
- 第十一分団 二宮 勝
- 第十二分団 宮本 時良
- 第十三分団 水上 和洋
- 第十四分団 堀内三三男
- 第十五分団 竹本 明善
- 第十六分団 根来 兵衛
- 第十七分団 鳥津幸佐雄
- 第十八分団 森田 保仁
- 第十九分団 松本 晋市
- 第二十分団 重岡 治明
- 第二十一分団 西村 高義
- 第二十二分団 宮藤 六美
- 第二十三分団 門田 清徳
- 第二十四分団 渡辺三康高

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

四月下旬よりの農作業
一、水稲関係について
二、水稲関係について
三、水稲関係について

昭和37年4月1日現在 世帯数 2,571 人口 12,186 (男 6,255 女 5,931)

婚姻(二月二十九日)

出生(二月二十九日)

死亡(二月二十九日)

お札